

平成24年度事後評価箇所表

担当課〔河川課〕

番号	4	事業名 (路線名等)	公共 広域基幹河川改修事業 (一級河川 武儀川)
実施箇所	関市(旧武芸川町)、山県市(旧美山町)		全体事業費 (当初130百万円) 4,443百万円
採択年度	昭和40年度	完了年度	平成18年度
事業目的	<p>一級河川武儀川は、昭和34年9月伊勢湾台風による豪雨で洪水が発生し、武儀川流域では、家屋の全・半壊199戸、床上・床下浸水405戸の甚大な被害が発生しました。</p> <p>本事業は、関市と山県市を含む約6.7km区間の河川改修を実施し、30年に1度に発生する洪水を安全に流下させ、被害を防止することが目的である。</p>		
事業概要	<p>事業区間延長：L=6.68km（掘削、築堤、護岸工、床止め工等）</p> <p>計画確率規模：1/30年</p> <p>計画高水流量：1,150m³/s</p>		
概要図			

評価結果	
<p data-bbox="188 264 624 297">① 住民参加・協働による効果</p> <ul data-bbox="188 327 1390 412" style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果、沿川住民の約60%の方は、清掃美化活動を行い、川との関わりを持たれている。 <p data-bbox="188 495 363 528">② 事業効果</p> <p data-bbox="172 551 459 584">洪水による浸水被害</p> <ul data-bbox="212 607 991 640" style="list-style-type: none"> ・事業完成後、洪水による浸水被害は発生していない。 <p data-bbox="172 663 491 696">事業完成後の水位低下</p> <ul data-bbox="212 719 1417 1021" style="list-style-type: none"> ・事業着手の契機となった昭和34年9月の洪水(最大洪水流量510m³/s[*])を、着手前の断面で流下させた水位はT.P+75.2m[*]完成後の水位ではT.P+74.6m[*]となり、改修前に比べて完成後の水位は約0.6m低下する。 ・事業完成後に発生した平成22年9月の洪水(最大洪水流量650m³/s[*])を、完成後の断面で流下させると水位はT.P+74.9m[*]となり、計画高水位T.P+75.8m以下で安全に流下する。 <p data-bbox="268 1043 1362 1077">※最大洪水流量、水位とも西武芸橋付近(10.9k地点)での計算による推定値</p> <p data-bbox="172 1099 331 1133">費用対効果</p> <ul data-bbox="212 1155 608 1189" style="list-style-type: none"> ・費用対効果 (B/C) = 21.2 <p data-bbox="172 1211 331 1245">コスト縮減</p> <ul data-bbox="212 1267 1182 1301" style="list-style-type: none"> ・主な内容：掘削残土を他工事へ流用することにより1.3億円の縮減 <p data-bbox="172 1323 363 1357">重要水防区間</p> <ul data-bbox="212 1379 975 1413" style="list-style-type: none"> ・重要水防区間は2箇所ありますが、今後解除の予定。 	
<p data-bbox="188 1491 459 1525">③ 環境面への配慮</p> <p data-bbox="188 1547 539 1581">動植物の生息、生育状況</p> <ul data-bbox="212 1603 1417 1805" style="list-style-type: none"> ・床止め工の落差を小さくし、魚道を設置することで川の連続性に配慮した。 ・魚類は、アユ、オイカワ等の13種が南武芸橋付近で確認されており、水辺の国勢調査で確認された魚種や、合流する長良川付近に生息する魚種と比べても大きく隔たりはなく、生息環境や川の連続性は維持されている。 <p data-bbox="172 1827 459 1861">景観に対する配慮</p> <ul data-bbox="212 1883 1417 2029" style="list-style-type: none"> ・できるだけ川幅を広げ、みお筋に変化を持たせるよう配慮した。 ・川の働きによって、みお筋は自然に形成され、水際の植生も回復してきている。 	

④ 事業を巡る社会情勢の変化

- ・事業着手時に比べ人口は77%に減少し、世帯数は112%増加している。
- ・沿川の国道418号は、緊急輸送道路に指定されている重要な路線であり、道路改良によって山口市～関市までの利便性が向上している。
- ・福祉施設、自立支援の事業所等の10施設が新たに立地しており、水害に対する安全性を引き続き確保していく必要がある。

⑤ 利用者・地域住民等への効果

総合的な満足度

- ・アンケート調査の結果は、次のとおり。

非常に満足している	満足している	どちらともいえない	満足していない	全く満足していない	無回答・無効回答
1%	28%	44%	8%	4%	15%

意見の内容

- ・洪水による浸水被害の解消
- ・樹木の伐採等の河川維持管理

⑥ 対応方針

今後の事業の必要性

- ・事業の実施により、計画高水流量1,150m³/sの河道が完成しており、事業完成後の目立った堆積も無く、河積は確保されている。
- ・魚類の生息環境、川の連続性は維持されており、植生も回復し従前の環境に近づきつつある。
- ・従って、今後の事後評価は必要ない。

改善処置の必要性

- ・洪水を安全に流下させるため、河道内樹木の伐採など、引き続き適正な維持管理を図る。

新規事業へ適用すべき留意点

- ・事業区間の延長が長く、完成まで長期間要したことから、事業効果を効率的に発現させるため、段階的な整備目標や重点投資区間の設定等の工夫が必要である。